

企業的側面

Company Overview

アサヒホールディングスグループは、
お客様や社会からの要請に対して
誠実にお応えし、
良識ある企業集団としての
責任を果たしてまいります。

アサヒウェイ “この手で守る自然と資源”

わたしたちの信条

わたしたちは、独自の技術と知恵で、
次世代からの預かり物である地球の資源を守り、
環境を保全します。

わたしたちが企業として大事にすること

- ・ 信頼と絆
- ・ 安全最優先、社名より人命
- ・ 革新と挑戦、なき者は去れ
- ・ 利益なくして成長なし

わたしたちが社員として守ること

- ・ 明るく礼儀正しく振る舞います
- ・ 考えながら迅速に働きます
- ・ 悪い情報や不都合なことこそ直ちに報告します
- ・ 高い目標を達成することで成長します

アサヒホールディングスグループの十則

- 第一則：わたしたちは、関係するすべての法令や規範に反する行為をしません。
- 第二則：わたしたちは、社会通念や自らの良心に反する判断や行動をしません。
- 第三則：わたしたちは、年齢・性別・国籍や職位にもとづく差別を行いません。
- 第四則：わたしたちは、会社や仕事に関連する場で許可なく政治活動や宗教活動を行いません。
- 第五則：わたしたちは、すべてのお客様に対し不誠実で不適切な対応やサービスを行いません。
- 第六則：わたしたちは、すべての取引において公平な競争や最適なお取引先の選定を妨げる行為をしません。
- 第七則：わたしたちは、業務上で知り得た社員やお取引先の情報、外部に公表されていない技術・財務・人事等の情報を洩らしません。また内部機密情報にもとづいた株式等の金融商品の売買を行いません。
- 第八則：わたしたちは、個人的利益に繋がる食事、接待や贈答を行わないし、受けることもありません。
- 第九則：わたしたちは、仕事でのすべての行為は全体最適のためと理解し、所属する集団や個人への利益を優先した行動や言動をしません。
- 第十則：わたしたちは、現場・現物・現実を徹底的に理解し、小さな事でも見逃しません。

アサヒホールディングスグループ各社の経営トップは、本則に反する事態が発生した時は自ら問題解決にあたり原因究明と再発防止に努めると同時に、自らを含めた厳正な処分を行います。

第6次中期経営計画 グループスローガン (2012年4月～2015年3月)

Act III , with Asahi Way

当社グループの歴史において、1952年の創業から1999年の株式公開までを第一幕 (ACT I) とし、株式公開から創業60周年を迎えた現在までを第二幕 (ACT II) とすれば、海外事業を拡大し、グローバルな展開を実現する第6次中期経営計画は第三幕 (ACT III) と位置づけております。この第三幕の端緒を開く第6次中期経営計画においては、「アジア地域における事業の拡大」、「M&Aによる事業領域の拡張」、「グループ経営管理の効率化」の3つのACT (行動) に重点的に取り組みます。



TOP MESSAGE

第6次中期経営計画の スタートにあたって

2011年度は、東日本大震災およびその後の放射能汚染や電力不足の問題が経済活動や日常生活に多大な影響を与え、また欧州債務危機に端を発して世界経済の動揺が続くなど、波乱の一年でした。そのなかで当社は、新規事業立ち上げやM&Aに取り組み、過去最高の売上高と営業利益を達成することができました。

2012年4月にスタートした第6次中期経営計画では、貴金属リサイクル事業分野を中心にアジア地域での事業拡大を目指します。生産工程の不良品および使用後に廃棄された回路基板などのEスクラップの再生や精密洗浄などの新たな事業ベース、その他幅広い分野で培った貴金属リサイクルの技術と経験を活かしながら、国内外の様々なパートナーと提携し、各国でスピーディに事業を立ち上げます。中国広東省では現地企業とジョイントベンチャー「江門朝日励福資源综合利用有限公司」を設立し、今年度から本格的に稼働を開始します。韓国アサヒプリテックはエレクトロニクス分野のみならずデンタル分野でも現地の顧客を獲得し、さらに事業を拡大する計画です。環境保全事業分野ではM&Aによって成長を継続します。

またこれらの次なる発展を支えるため、すべての業務の生産性向上、とりわけ間接部門の効率性を追求し、グローバル市場で勝ち抜くことができる経営基盤を確立します。

海外事業の進展やM&Aによって企業集団が拡大するため、これまで「経営理念」「行動指針」「倫理綱領」として受け継いできた企業としての思想や社会の一員として守るべき精神を、あらためて「アサヒウェイ」というかたちに集約し、これを多国語に翻訳し、グループ各社、世界各地の社員の拠りどころとして共有いたします。

これからも地球環境を守り、持続可能な社会を実現するために、当社事業に邁進してまいりますので、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2012年5月

代表取締役会長兼社長 寺山満春

グループ概要

貴金属リサイクルと環境保全を中心に事業活動を展開し、地球環境の保全に貢献しています。

アサヒホールディングス株式会社

●会社概要

創 業：1952年7月

設 立：2009年4月

資 本 金：4,480百万円

代表取締役：寺山 満春（会長）

櫻井 勉（社長）

本 社：〒650-0001

兵庫県神戸市中央区加納町4-4-17

ニッセイ三宮ビル16F

TEL 078-333-5633

FAX 078-333-5681

〒100-0005

東京都千代田区丸の内1-7-12

サピアタワー 11F

TEL 03-6270-1833

FAX 03-6270-1859

社員数（連結）：1,292名（2012年4月現在）

URL <http://www.asahiholdings.com>

役員一覧：

代表取締役会長 寺山 満春

代表取締役社長 櫻井 勉

取 締 役 武内 義勝

取 締 役 東浦 知哉

取 締 役 平野 眞幸

取 締 役 森井 章二*

常勤監査役 田辺 幸夫

監 査 役 徳嶺 和彦*

監 査 役 小島 順三*

*会社法第2条に定める社外役員

（2012年6月14日現在）

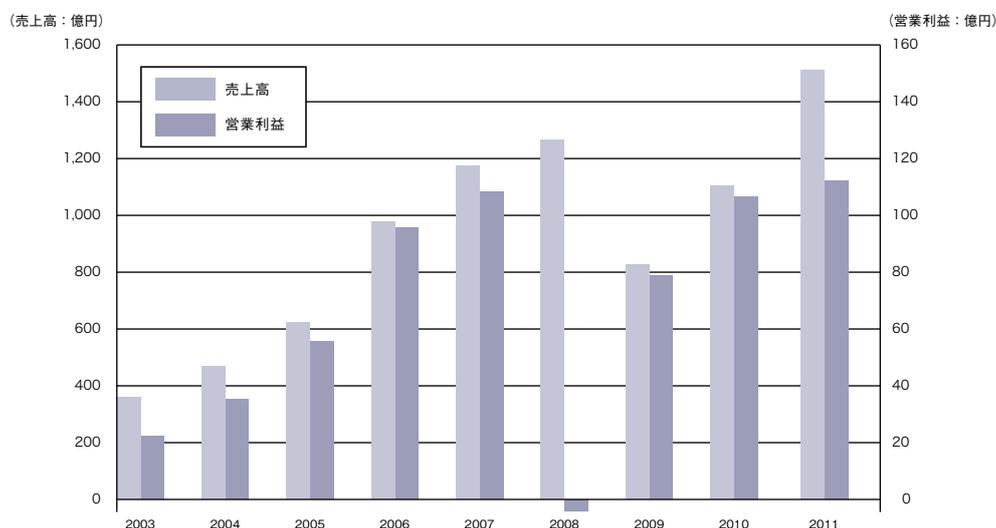


神戸本社

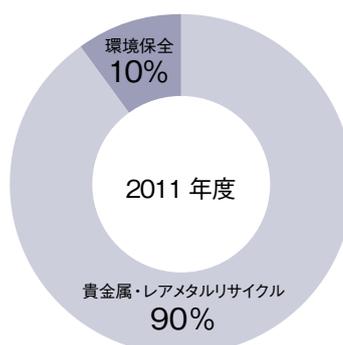


東京本社

●売上高・営業利益の推移



●事業セグメント別グループ売上高構成比



アサヒプリテック株式会社

●会社概要

事業内容：貴金属・レアメタルリサイクルおよび
産業廃棄物処理

代表取締役：櫻井 勉

本社：〒650-0001
兵庫県神戸市中央区加納町4-4-17
ニッセイ三宮ビル16F
TEL 078-333-5600
FAX 078-333-5681
〒100-0005
東京都千代田区丸の内1-7-12
サピアタワー 11F
TEL 03-6270-1820
FAX 03-6270-1825

社員数：868名

URL <http://www.asahipretec.com>

<国内拠点>

研究所：テクノセンター（神戸）

工場：埼玉、尼崎、神戸、愛媛、福岡、北九州、北九州ひびき
リサイクルセンター：埼玉、千葉、尼崎

営業所：札幌、青森、仙台、新潟、北関東、関東、横浜、
甲府、静岡、名古屋、北陸、神戸、岡山、広島、四国、
福岡、北九州、鹿児島、沖縄

<関係会社>

株式会社ウスタ製作所

<海外拠点>

韓国アサヒプリテック株式会社

上海朝日浦力環境科技有限公司

Asahi G&S Sdn. Bhd. (マレーシア)

江門朝日励福資源综合利用有限公司

ジャパンウェイト株式会社

●会社概要

事業内容：環境保全
(産業廃棄物処理およびその他の環境保全事業)

代表取締役：武内 義勝

本社：〒650-0001
兵庫県神戸市中央区加納町4-4-17
ニッセイ三宮ビル16F
TEL 078-333-5680
FAX 078-333-5681
〒100-0005
東京都千代田区丸の内1-7-12
サピアタワー 11F
TEL 03-6270-1828
FAX 03-6270-1839

社員数：364名

URL <http://www.japanwaste.co.jp>

<国内拠点> 横浜

<関係会社>

日本ケミテック株式会社

JW ガラスリサイクル株式会社

富士炉材株式会社

エコマックス株式会社

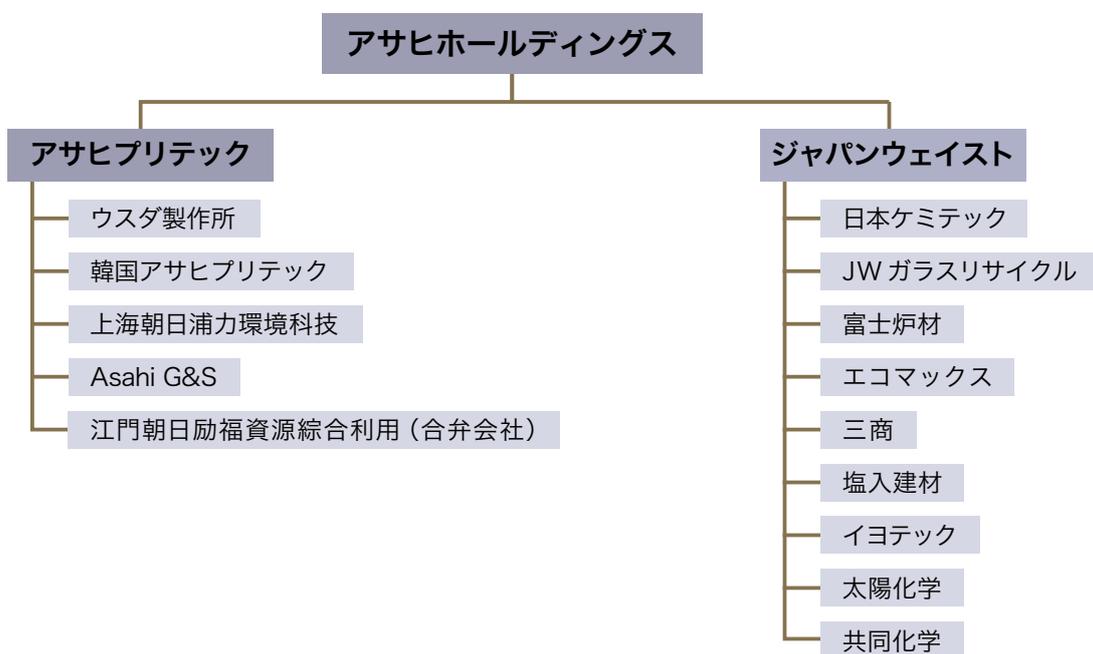
株式会社三商

株式会社塩入建材

株式会社イヨテック

株式会社太陽化学

株式会社共同化学



(2012年4月現在)

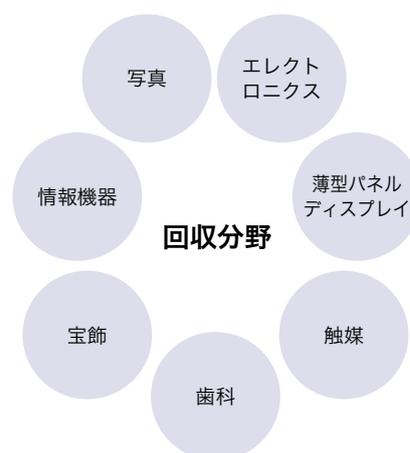
事業紹介 貴金属リサイクル事業

限りある資源を有効活用し、地球と社会のために貢献しています。

アサヒプリテックを核として、私たちはさまざまな分野から発生する貴金属・レアメタル含有スクラップを回収し、リサイクルしています。金・銀・パラジウム・プラチナ・インジウムなどを、現代のモノづくりに欠かせない貴金属・レアメタル製品として再生することにより、資源の有効活用と産業の発展に貢献しています。

貴金属原材料の回収分野と地域は多岐にわたります。

全国をカバーする営業ネットワークと海外拠点を活かし、エレクトロニクス・薄型パネルディスプレイ・触媒・歯科・宝飾・情報機器・写真などのさまざまな産業分野から貴金属・レアメタル資源を効率よく回収しリサイクルしています。



確かな品質が国内外で高い評価を受けています。

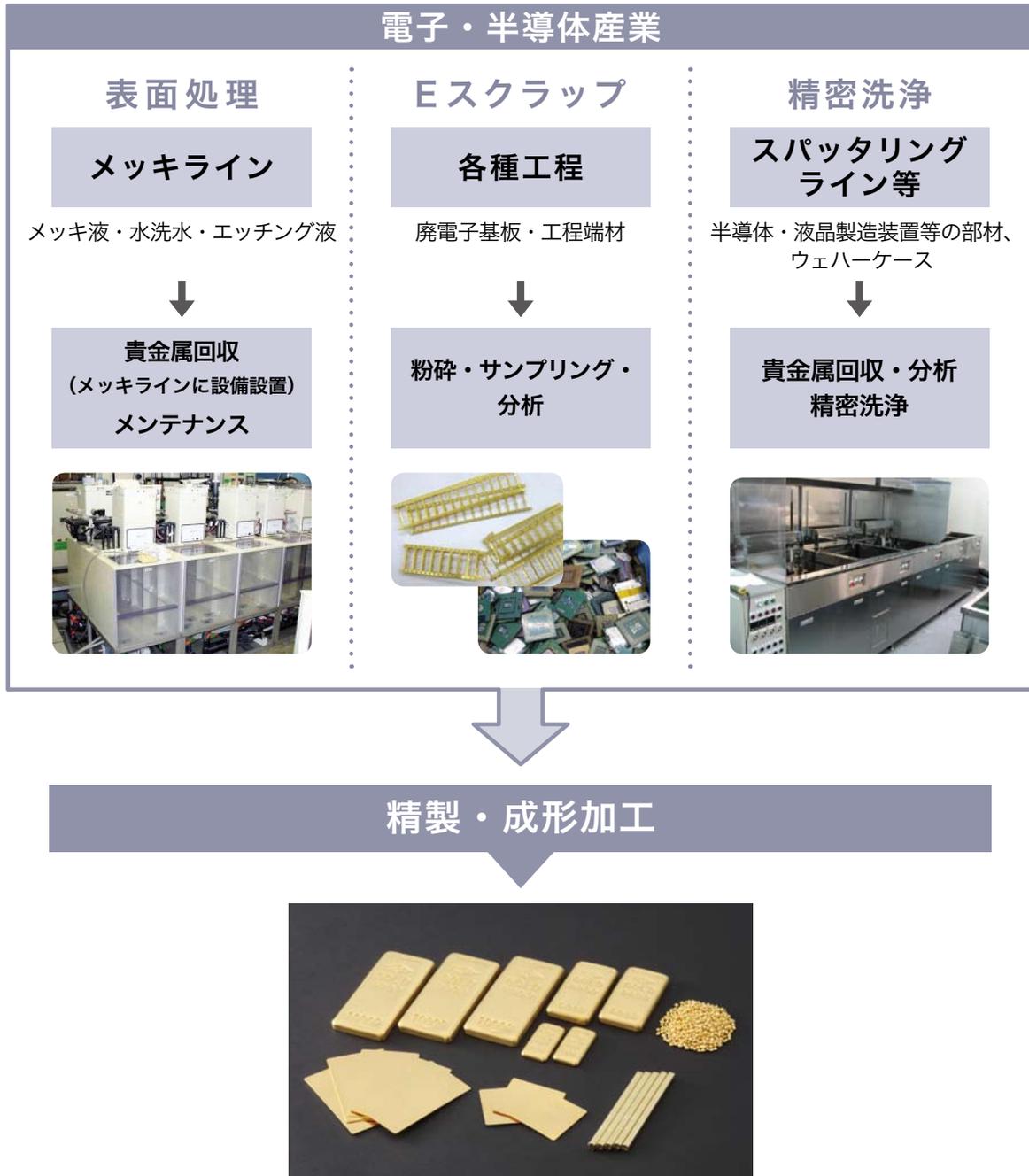
アサヒプリテックは(社)日本金地金流通協会の正会員で、金・銀・プラチナ・パラジウムの地金は、東京工業品取引所の受渡供用品としてブランド認証を受けています。さらに、金・銀はLBMA(The London Bullion Market Association)、プラチナ・パラジウムはLPPM(The London Platinum and Palladium Market)のグッド・デリバリー・バーとして認定を受けており、確かな品質が世界のマーケットで高く評価されています。



エレクトロニクス関連

電子・半導体産業では、パソコン・携帯電話などに使用される電子部品やプリント基板の製造工程などで、貴金属やレアメタルが使用されます。当社はさまざまな

工程で排出される貴金属やレアメタルを卓越した技術で回収しリサイクルしています。



表面処理では、メッキ液等に含まれる貴金属を中心としたリサイクル事業に取り組んできました。金・銀・パラジウムなどの貴金属回収に加え、レアメタルなどの再資源化や水処理・再使用など環境に配慮した回収技術を併せて提供します。

Eスクラップでは、使用済みのパソコン・携帯電話・各種情報機器から廃棄される電子基板や、電子・半導体

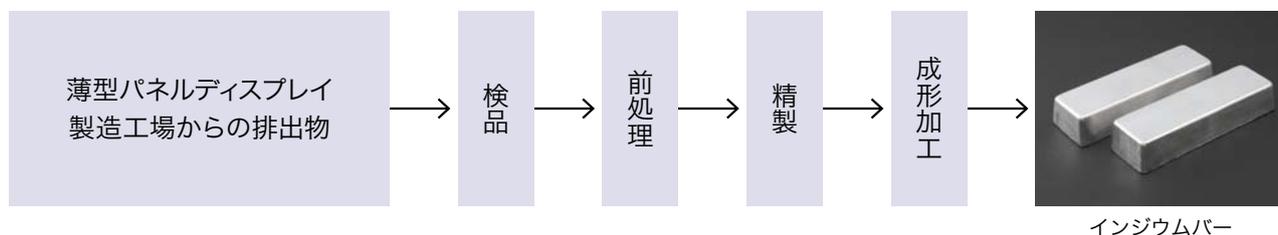
産業の工程から排出される端材・廃材を回収し、最新鋭のサンプリング・分析工場で正確な貴金属含有量を確定して、貴金属のリサイクルを行っています。

また関係会社のウスタ製作所では、半導体や液晶製造装置等の部材や樹脂製ウェハーケースなどをお客様からお預かりし、精密洗浄する事業を展開しています。

薄型パネルディスプレイ関連

液晶テレビ、プラズマテレビなど薄型パネルディスプレイの分野では、インジウム、銀などが使用されています。中期的に薄型パネルディスプレイ市場は拡大を続けると

いわれており、当社は独自の高度な技術により、これら貴金属・レアメタルのリサイクルに取り組んでいます。

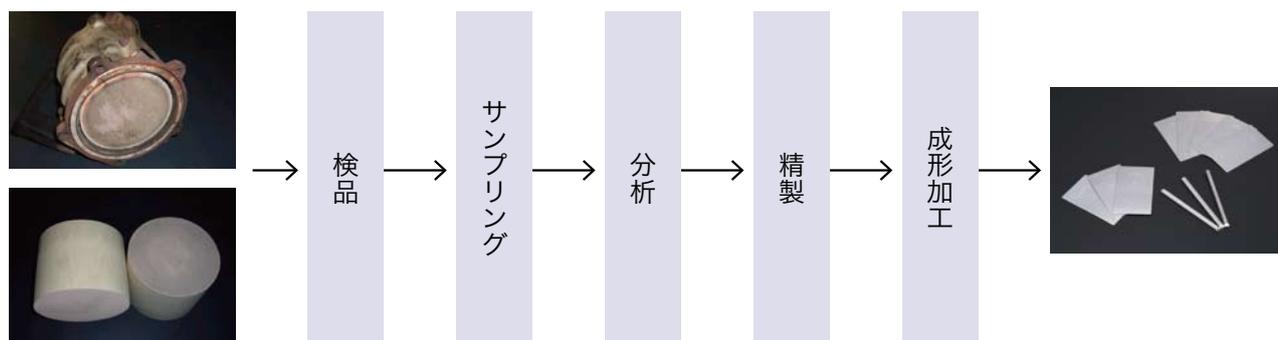


インジウムバー

触媒関連

触媒分野では、大気汚染防止法、自動車分野におけるNOx・PM法など、排ガスに対する環境規制に従い、自動車触媒としてプラチナ・パラジウム・ロジウムの貴金属

が使用されています。当社は独自の技術により、自動車触媒、化学触媒などからの貴金属リサイクルに取り組んでいます。



自動車触媒

TOPICS

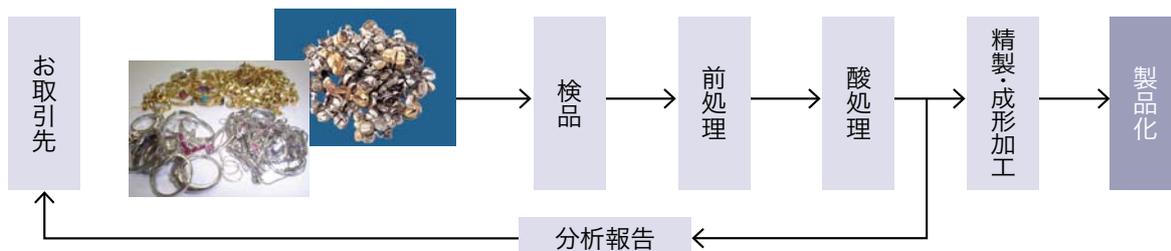
中国・広東省の貴金属リサイクル工場が竣工



励福実業（江門）とアサヒプリテックの中国現地法人である上海朝日が共同で設立した江門朝日励福資源综合利用有限公司は、広東省江門市に貴金属リサイクル工場を竣工しました。広東省は中国における有数の自動車関連産業集積地であり、今後、触媒分野からの貴金属リサイクル需要が見込まれます。本工場では、貴金属の分析・分離・精製における当社の高い技術力を活用し、プラチナ・パラジウム・ロジウムを回収します。

歯科関連

歯科医院や歯科技工所から排出される撤去冠・铸造くずなどは金・パラジウム・銀などを含む貴重な貴金属資源です。当社独自の管理システムにより、工程ごとに二重三重のクロスチェックを行い、分析納期の短縮、分析数値の精度アップを実現します。



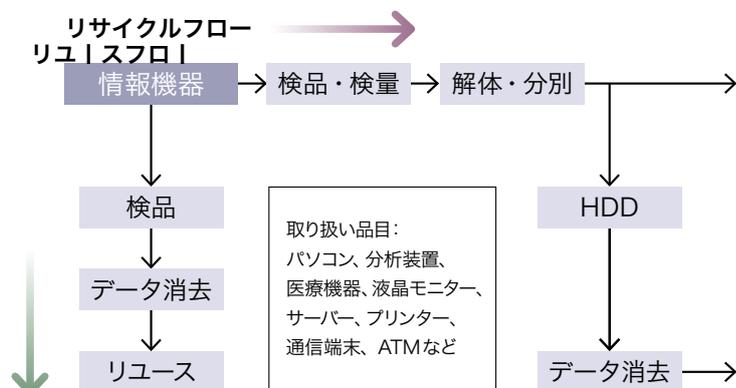
宝飾関連

高度な分析・貴金属精製技術に基づき、宝飾品の製造過程で発生するバフ粉や電解研磨液等の回収および流通過程等で求められる各種リサイクルに対応しています。また、宝飾品製造団体の「貴金属スクラップの回収・分析」において業務委託を受けており、当社の長年の実績に対してお取引先の皆様から厚い信頼をいただいております。

情報機器関連

全国のおフィス・工場・データセンターなどからパソコンをはじめとする情報機器などを回収し、徹底した素材分別を行うことにより、使用素材を再資源化し、環境負荷の低減をめざしています。HDD（ハードディスクドライブ）

のデータを完全消去するなど、企業情報・個人情報の漏洩を防止し、情報セキュリティに責任を持って取り組んでいます。

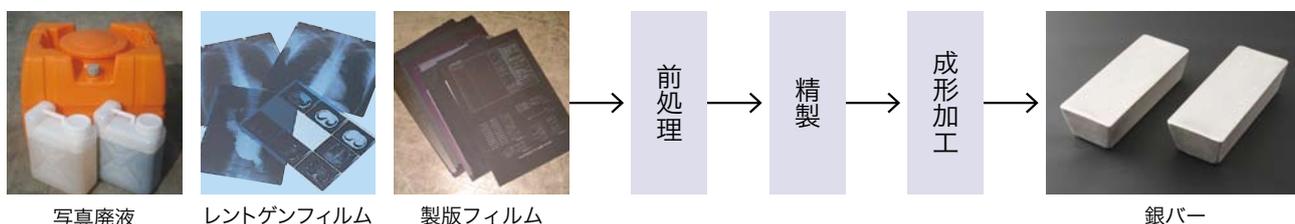


*リサイクルセンター（埼玉・尼崎）は「情報セキュリティ管理規格」ISO27001 認証を取得しています。

写真関連

写真現像所、医療機関、印刷製版所などから排出される写真廃液、レントゲンフィルム、製版フィルムなどを回収し、銀のリサイクルと無害化処理を行っています。また、ミニラボから排出されるフィルムケース、パトローネ、薬

品ボトルは、圧縮・破碎処理後に素材原料として再利用するゼロエミッション・マテリアルリサイクルを実現しています。



RESEARCH & DEVELOPMENT テクノセンター

技術のテクノセンター

「貴金属・レアメタルのリサイクル」と「産業廃棄物の無害化・再資源化」に向けて、独自の研究開発と分析技術開発を進めてきました。その中枢が神戸ハイテクパーク内に開設された「テクノセンター」です。品質向上と技術革新を通じて社会に貢献する企業としてさらなる飛躍をめざします。

研究開発

常にニーズを先取りし、蓄積された要素技術の応用と新技術の開発を通じて、新製品、新事業の創生に努めています。

- ① 貴金属・レアメタルの分離・精製・分析技術
- ② 環境保全・再資源化技術
- ③ 貴金属成形加工技術
- ④ 中性電解水応用技術



分析

当社グループ分析機能の中枢として、最新分析機器と高度な分析技術で多岐にわたる企業活動を支援しています。また、お客様、お取引先の信頼を確実に保持し、高める役割を担っています。

- ① 新規分析技術の開発
- ② 各工場・営業所分析グループの技術指導
- ③ 貴金属製品や歯科用合金の純度分析
- ④ 工場排水などの環境分析
- ⑤ 環境計量証明事業



生産技術

最先端技術を駆使し、各分野のエキスパートが、国内拠点・海外拠点の設備の設計・製作・施工・メンテナンスを行い、設備の安全かつ安定的な操業の支援をしています。

- ① 設備および建屋の設計・製作・施工・管理
- ② 既存設備の維持管理・メンテナンス
- ③ 顧客先への貴金属回収設備の設置・アフターサービス



TOPICS 貴金属回収技術の開発

「低品位貴金属含有廃棄物からのパラジウム回収技術の開発」をテーマとした当社研究が、NEDO（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）の「希少金属代替・削減技術実用化開発助成事業」に採択されました。パラジウムは自動車排ガス浄化触媒などに使用されている貴金属で、希少資源の一つです。長年にわたって培った貴金属の回収・精製技術を活用し、パラジウムを低品位原料から効率的に濃縮・抽出する技術を確立していきます。

事業紹介 環境保全事業

廃棄物処理のエキスパートとして、持続可能な循環型社会の実現に取り組んでいます。

私たちは各種廃棄物の無害化・適正処理を行い、地球環境問題の解決に貢献しています。アサヒプリテックおよびジャパンウェイスト傘下のグループ会社が長年それぞれの分野で培ってきた独自技術の提供を通して、お客様の多様なニーズにお応えします。

幅広い分野で高付加価値サービスの提供に努めています。

各分野に特化した処理技術で、多様化・高度化するお客様のニーズに迅速にお応えします。



当社グループの取得ライセンス

■ 産業廃棄物収集運搬業許可	すべての都道府県・政令市
■ 産業廃棄物処分業許可	15都道府県 10政令市
■ 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可	すべての都道府県・政令市
■ 特別管理産業廃棄物処分業許可	12道県 8政令市

(2012年3月31日現在)

さまざまな廃棄物のグループ内 ワンストップソリューションをめざしています。

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物のほとんどの品目について収集運搬および中間処分の許可を取得し、適正かつ迅速に処理できる体制づくりをしています。さらに、産業廃棄物の卓越した無害化処理技術とゼロエミッションの確立を進め、環境分野におけるグループ内ワンストップソリューションの実現をめざしています。

お客様

教育機関
(大学、小・中・高校、
教育委員会等)

官公庁

化学薬品メーカー

プラントメーカー

ガラス・サッシメーカー

その他各種メーカー

研究機関

分析事業所

病院・医院等

収集運搬・中間処分

収集運搬

● 産業廃棄物

廃酸、廃アルカリ、廃油、
汚泥、廃プラスチックなど
16種類

● 特別管理産業廃棄物

特定有害物質を含む廃酸、
廃アルカリ、廃油、汚泥、
感染性廃棄物など
12種類



中間処分

中和

凝集沈殿

濃縮

脱水



シアン分解

油水分離

焼却

中和・混合



乾燥

洗浄

選別・圧縮・破碎

溶融

混練

コンクリート固型化

特定有害廃酸・廃アルカリ・ 廃試薬処理

工場や事業所から排出される廃酸、廃アルカリや大学・民間企業の実験室や研究所で不要になった廃試薬は適正処理が必要です。これらの多品種にわたる廃棄物は、徹底した安全管理体制のもと当社グループが長年培ってきた技術を駆使し、各工場専用ラインで無害化処理をしています。また、当社グループの分類基準に沿って容器に分別保管し、収集運搬および保管時の異常反応発生防止措置を行っています。廃試薬瓶のラベルが剥れ、内容物が不明な廃試薬についても当社で分析し、適正処理のサポートを行います。



梱包作業



廃試薬処理設備

廃酸・廃アルカリ・汚泥の 高速微生物処理

工場や事業所からの廃液については有害物質を取り除いた後、窒素・リンを含む場合でも、微生物処理等の独自技術によって排除基準値未満まで浄化し、下水道放流しています。特にエネルギー消費や二酸化炭素排出量は、他の処理方式との比較で低くなっています。

また、廃液の中和・脱水後の汚泥は、非鉄金属や鉄鋼の原料として再利用されています。一部リサイクルできない汚泥は、埋立処分されます。



高速微生物処理施設

有害物のコンクリート固型化処理

焼却処理施設などから発生する燃え殻、煤塵、汚泥や有害物（重金属、ダイオキシン類、鉛やヒ素・クロム・セレン等）を含む廃棄物の中にはリサイクルに適さないものがあります。このような廃棄物から有害物が溶出しないようにコンクリート固型化（不溶化）処理しています。強い酸性条件下でも有害物を自然界に溶出させない独自の設備と技術を有しています。



不溶化処理施設

有害廃棄物の洗浄処理

半導体メーカー、電子部品メーカー、研究所などの半導体製造装置・各種研究設備に付着した有害物質を洗浄処理しています。洗浄処理後の装置や設備は素材分別、再資源化することで環境負荷低減を図っています。

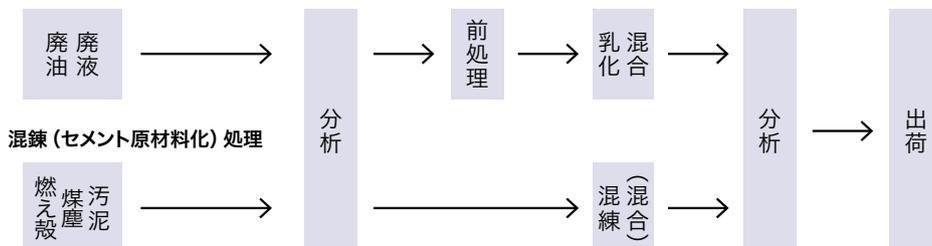


洗浄処理装置

● 廃油・廃白土リサイクル

さまざまな廃油や廃液を分析結果をもとに最適な配合で混合、成分調整を行い、代替燃料としてリサイクルしています。また、汚泥や燃え殻などは成分や水分を調整し混練することでセメント原料としてリサイクルしています。なお、受け入れ時と出荷時に徹底した分析を行い、マテリアルリサイクル品としての品質維持管理に努めています。

中和・混合(燃料化)処理



製品タンク



セメント原料製造施設

● 廃木材リサイクル

建築物の解体現場などで発生する廃木材を破碎し、破碎後の木材チップをバイオマス発電燃料やパーティクルボード材料としてリサイクルしています。



木材チップ

● 耐火レンガリサイクル

ガラス製造炉の窯解体およびごみ焼却炉などの定期修繕工事で発生する廃耐火レンガは、精緻な分別を行い、耐火レンガや路盤材としての再利用を図るなどリサイクルを意識した処理を行っています。



耐火レンガ

● ガラスリサイクル

ガラスメーカー、サッシメーカー、自治体などから板ガラス、ガラス瓶などを回収しています。回収した板ガラスくず、ガラス瓶などは自社工場では選別破碎後、高品位のガラスカレットとして再生・販売しています。ガラスリサイクルを通じて、鉱物資源の枯渇防止や環境負荷低減を図っています。



選別ライン



製品ガラスカレット

● 有機性廃液・汚泥のリサイクル

食品製造工場、レストランチェーンなどから排出される有機性廃液は、中和・脱水を行います。ろ液は微生物処理で排除基準値未満まで浄化し、下水道放流しています。汚泥は、発酵・熟成プラントで堆肥化することにより農家の方々にリサイクル肥料として有効利用していただいています。



堆肥発酵棟